

主題セッション

「実験潰瘍研究の新展開：臨床応用を目指して」

司会 堀江 俊治（城西国際大学薬学部薬理学研究室）
谷中 昭典（筑波大学医学医療系臨床医学域）

実験潰瘍研究の意義は、疾患モデル動物や細胞等を用いて臨床における潰瘍の病態を解明し、有効な治療薬を開発することにあります。胃・十二指腸潰瘍については、既に主な成因が解明され治療法も開発されましたが、食道、小腸、大腸における潰瘍の病態研究は未だ道半ばです。本セッションでは、これらの疾患の病態解明を念頭においた新たな実験方法・モデル動物の開発、病態研究に関する新知見、新規治療薬・ドラッグリポジショニング等に関する研究成果等について応募を期待します。